

ペルー・ブラジル移民の 展示コーナーが開設しました

日本ハワイ移民資料館

西屋代にある日本ハワイ移民資料館内に、ペルーとブラジルの移民の歴史を展示するコーナーが新設され、4月12日、オープニングセレモニーが行われました。

明治時代から、南米へも多くの日本人が夢を抱いて海を渡り、厳しい労働環境に耐え、第二次世界大戦をはじめ幾多の苦難を乗り越えた移民の歴史があります。中には多くの山口県民も含まれており、この歴史を多くの人に知ってもらいたいという要望に応え実現したもので、ペルー・ブラジル両国の移民に関する常設展示は県内初。展示コーナーは2階の一角約21㎡に開設され、年表や当時の写真、旅券や移民契約書など貴重な資料が多数展示されています。ハワイ移民とあわせて、遠く海の向こうの国々で努力し活躍された日本人に想いをほせてみてはいかがでしょうか。



▲テープカットを行う（向かって左から）木元眞琴館長、椎木巧町長、湯田克治山口県ペルー協会副会長、橋本憲二山口県ブラジル親善協会会長

日本ハワイ移民資料館

開館 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
入館料 大人400円 子供200円

19 周防大島の文化財

山田神社の社叢（外入）^{しゃそう}



山田神社の社叢（神社の境内を囲む森）には、東南アジアの亜熱帯地方に生息する珍しい植物がいくつかある。その中でもヤマモガシは県内でも珍しいため、「山口県の絶滅危惧種」になっている。大きい木は高さ約10メートルもあり、7月下旬から8月上旬にかけて白いつぼみや花がブラシのように生り、梢が白く見える。この花は咲き終わると小さな緑の実となり、秋には長さ約1センチメートル位の楕円形の黒い実になる。この実はヒヨドリによって運ばれ、母樹の周りに大小の

幼苗が育っている。

ヤマビワも山口県では希な木で、周南部では柳井市にある賀茂神社の社叢を除いて他にない。大きい木は高さ約8メートルあり、5月下旬から6月はじめに白い花が咲き、梢全体が白く盛り上がって見える。生じた実は12月下旬にかけて約8ミリメートルの黒い球に成熟する。花の咲いた母樹のまわりに大小の苗が少数育っている。ヤマモガシもヤマビワも屋代島内では山田神社の社叢でしか見つかっていない。

サカキズラは屋代島内では山田神社と下田神社の社叢でだけ見つかっている。山田神社のホルトノキは屋代島内の中でも特別に大きい。タイミンタチバナは下田神社の社叢と同じように多数ある。暖かい地方の社叢でないとなかなか育たないもので、一斉に開花した時は大変よい香りがする。神社の石段を登った辺りにあるウラジロガシは、山口県では標高約1000メートルの寒い山地から柱島諸島の黒島のような暖かい所まで、点々と生育する寿命の長い植物である。

この神社の社叢には以上に述べたような貴重な木が様々あるのでぜひ足を運んでいただきたい。

《町文化財保護審議会委員 南 敦》



▲サカキズラ



▲タイミンタチバナ